

ARIBの動き

周波数資源開発シンポジウム2005が開催される

去る5月27日、独立行政法人情報通信研究機構(NICT)及び当会の主催による「周波数資源開発シンポジウム2005」が明治記念館(港区元赤坂)において開催されました。

本シンポジウムは、近年、社会の情報化の進展により電波利用が多様化するなかで、周波数帯の効率的利用のために周波数資源開発を推進することを目的として開催されました。

独立行政法人情報通信研究機構の塩見理事が開会の挨拶を行い、来賓として総務省大臣政務官の山本保様からご挨拶をいただきました。ITS情報通信システム推進会議研究開発部会長の慶応義塾大学教授川嶋弘尚様からITSの変遷及びITS情報通信システム推進会議のご紹介をいただいた後、内外の先端の研究及び開発に携わってこられた6名の方から、「新しいITS技術の動向と展望」―安心・安全な新しい交通システムの未来を拓く―と題して、欧州及びフランスにおけるITSの将来ビジョンなど、周波数の有効利用を図り、より高度かつ多様な無線通信サービスの実現に資する事を可能とする先端的な技術についてご講演をいただきました。

当日は、定員の250名を超えるご来場があり、満席の会場で熱心に聴講されていました。



シンポジウム2005会場の様子と
総務省大臣政務官の山本保様のご挨拶

講演 1 : 欧州及びフランスにおけるITSの将来ビジョン

Ecole Nationale Supérieure des Telecommunications de Bretagne, France

Prof. Xavier Lagrange

講演 2 : IPv6とアドホックネットワーク技術のITSへの応用

University of Electronic Science and Technology of China

Prof. Shizhong Xu

講演 3 : 韓国におけるITSとテレマティックのための通信技術

Electronics and Telecommunications Research Institute, Korea

Dr. Hyunseo Oh

講演 4 : 自律走行運転に関する実験報告と将来動向

The Ohio State University, USA

Prof. Umit Ozguner

講演 5 : マイクロ波帯を用いた車々間通信システム検討状況

ITS情報通信システム推進会議 車々間通信システム専門委員会 委員長

富士通株式会社 ITS事業本部 技師長

堀松 哲夫 氏

講演 6 : ミリ波ITS通信実験と将来動向

情報通信研究機構 横須賀無線通信研究センター 研究センター主管

藤瀬 雅行 氏

第58回規格会議が開催される

去る5月26日、第58回規格会議が霞が関東京會館(霞が関ビル)において開催されました。

今回は、次に掲げる標準規格の策定¹件及び技術資料の改定²件について審議され、すべて提案のとおり承認されました。

また、今回策定されたARIB STD-T89の原案を作成されたユビキタスネットワークワーキングフォーラム電子タグ高度利活用部会無線通信専門委員会UHF帯電子タグシステム標準化ワーキンググループの副主査である渡辺淳氏から、「RFID：技術・標準化動向」という演題で、講演をいただきました。



第58回規格会議の様子



RFIDについての講演の様子

- 1 950MHz帯を用いる構内無線局移動体識別用無線設備標準規格の策定
- 2 地上デジタル音声放送運用規定技術資料の改定
- 3 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料の改定

策定又は改定された標準規格及び技術資料の概要は次のとおりです。

1 950MHz帯を用いる構内無線局移動体識別用無線設備標準規格(ARIB STD-T89 1.0版)

本標準規格は、電波法施行規則第14条第3項に規定される構内無線局の用途のうち、移動体識別用であって、無線設備規則第49条の9第1号に規定された952MHz以上954MHz以下の周波数の電波を使用する無線設備について規定したものである。

本標準規格は、質問器、空中線及び応答器からなる無線設備の技術的条件について規定したものである。一方、質問器と応答器との間の通信プロトコル(相互接続性に関する規格)については、本標準規格では規定しない。

また、近隣の同システムへの有害な電波干渉を回避するために、「950MHz帯を用いる構内無線局移動体識別装置の運用の手引き」を参考資料として添付した。

2 地上デジタル音声放送運用規定技術資料(ARIB TR-B13 2.1版)

今回は、第三編データ放送運用規定中の以下の項目等を改定した。

P2プロファイル放送ブックマークの運用詳細を明確化した。

簡易動画については、帯域が限られた中での簡易動画の品質を向上させるため、QVGA16:9で240×135、SQVGA16:9で120×68のパンスキャンモードを新たに追加した(受信機の対応はオプション)。また、MPEG-4 Videoを運用しないと明確化した。

地上デジタル放送で独自に使用する放送用拡張関数の(TBD)項目について詳細を規定した。

detectComponent()で指定できるコンポーネントを、データコンポーネント以外のコンポーネントも指定できるように修正した。

参考資料デジタルラジオ拡張データサービス(Eプロファイル)の運用ガイドラインでは、XML名前空間による識別方法を運用しない、とした。

3 地上デジタルテレビジョン放送運用規定技術資料の改定(ARIB TR-B14 2.4版)

今回の改定では、(1)車載型受信機における双方向通信機能の実装、(2)汎用ルート証明書の運用、(3)内蔵HDD等におけるコンテンツの蓄積、等に関する改定を行った。これらのうち、(1)と(2)は13セグメントサービス(受信機)に係る改定であり、(3)は13セグメントサービスと1セグメントサービス双方に係る改定である。

また、1セグメントサービス(受信機)に関する規定については、3月の2.3版に改定以降関係各方面の調整によって明確になった事項として、放送ブックマークに係る規定、MIDIの運用制限、印刷関数の扱いの明確化等を行った。

欧州電気通信／放送の動き

地上デジタル：ニュース専門局間の争い、激化 【Le FIG-ECO,2005/05/11】

CSA（仏視聴覚最高評議会）は5月10日、新たな地上デジタルの無料放送4チャンネルの一つとして、カナル・プリュス傘下のiテレを選択した。これにより、地上デジタル放送上で、ニュース専門局間の争いが展開されることになった。

特にTF1傘下でニュース専門局としては最高の視聴率を誇っているLCIとの競争が注目される。LCIの広告収入は1800万ユーロで、ほぼ同額を視聴料に頼っている。一方、iテレの業績は、カナル・プリュスに連結されているため、正確に知ることは困難ではあるが、仏CATVのヌース上で無料放送されている外、衛星放送TPSなどから僅かな放送料を受け取っている。また、iテレの広告収入は500万ユーロを越えることはないと見られている。カナル・プリュスはCSAに対し、iテレが地上デジタルで放送されることによる知名度の向上により、広告収入が2倍、更には3倍になると説明していた。

編集後記

5/20(金)の退勤後から5/21(土)にかけて、第10回ARIB旅行会が行われ、今年は箱根に一泊旅行に行ってきました。

初日は、旅館での宴会と二次会で盛り上がりました。

2日目の早朝には、利用促進部のU部長のご厚意と総務部の女性達の奮闘により、旅館前にミニSLが設置され、大勢が乗車し、童心に還って楽しむことができました。



2日目は、ゴルフ、観光、自由行動の3つのコース選択ができたのですが、編集子は、大湧谷→箱根関所跡→昼食→ビール工場見学という観光コースを選びました。

観光コースの昼食は、芦ノ湖湖畔での中国料理だったのですが、編集子は企画国際部と放送グループのメンバーを中心にしたテーブルにつきましたが、「(料理が出るのが)遅い。」「ご飯が少ない。」「ザーサイが少ないから、もう一皿持ってきて。」「杏仁豆腐のチェリーが足りない。」というように、同席の諸先輩達からはブーイングの連続でした。料理はおいしかったので満足しましたが...

昼食の席上で、OBの元編集子ECHO氏が、「OBになって、ARIBニュースに対する先輩OBの気持ちがよくわかった。いつも編集後記から読んでいます。編集後記のないARIBニュースなど読む気がしないので、即時、ゴミ箱行きにしている。」と語っていました。こうやって、直にプレッシャーを与えられると、編集後記を書かざるを得ません。

(編集子:PAO)